

平成27年度 STI 予防委員会研究報告

横須賀市医師会 STI 予防委員会

<緒 言>

横須賀市医師会と横須賀市保健所は、横須賀市内で発生する STI (Sexually Transmitted Infections=性感染症) の撲滅及び予防のために密接な協力体制を長年に亘り維持して来ている。毎年、横須賀市における STI の発生状況に対する実態調査を行っており、平成 24 年度からは調査結果を『STI 予防委員会研究報告』として横須賀市保健所のホームページ上で公開している。ここに平成 27 年度の調査結果を集計し、検討を加えたので報告する。

<対象及び方法>

平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までの期間に横須賀市内の協力医療機関 (別記) を受診した STI の症例を毎月、指定の『STI 患者報告票』に必要事項を記載した上で FAX にて横須賀市医師会に送ってもらい届け出施設と回収率を集計した後に横須賀市保健所健康づくり課の協力で集計した。集計結果については STI 予防委員会で議論された。

膣カンジダ症については症例が多いこと、必ずしも STI ではないこともあり、届け出は婦人科医の自主性にまかせ、届け出されたものについてのみ集計した。

非淋菌性尿道炎の「その他」については、クラミジア及び淋菌の検出はなかったが、明らかに STI が考えられる尿道炎につき届け出され集計した。子宮頸管炎の「その他」も同様である。

<結 果>

1. 届け出施設と回収率

52 施設 (病院 7、診療所 45) に集計を依頼し、届け出に協力いただいた施設は 42 施設で回収率は 81%であった。その内訳は病院が 7/7 (100%)、泌尿器科診療所 5/6 (83%)、婦人科診療所 13/15 (87%)、皮膚科診療所 8/13 (62%)、混合科診療所 9/11 (82%) であり、昨年と同様であり皮膚科診療所からの届け出が少なかった。

2. STI の総数

平成 27 年度 STI 届け出数を年齢別、性別、病名別に表 1 に示した。全届け出数は 672 件で、昨年の 778 件と比較して約 100 件減少していた。

3. 疾患別の統計

1) 梅毒

初期梅毒は 13 例(男性 8 例、女性 5 例)の報告があった。後期潜伏梅毒はなかった。昨年度は初期梅毒 3 例(男性 2 例、女性 1 例)であり、男女ともに増加していた。

2) 淋菌

淋菌性尿道炎は、男性 70 例で昨年の 109 例と比べて減少していた。特に 25 歳から 35 歳までの男性で減少が顕著 (昨年 48 例、今年 14 例) であった。逆に 10 代の男性では増加 (昨年 5 例、今年 8 例) していた。女性は昨年 3 例で

あったが今年は何であった。

淋菌性子宮頸管炎は17例であり、昨年(20例)、一昨年(29例)から減少傾向であった。淋菌性咽頭炎は40代女性1例報告されている。

3) クラミジア感染症

クラミジア性尿道炎は124例で、その内119例が男性で昨年の151例から減少している。年齢では淋菌尿道炎と同様に25歳から35歳までの男性で減少(昨年62例、今年39例)が顕著であった。逆に10代では増加(昨年7例、今年10例)していた。

クラミジア性子宮頸管炎は156例で昨年(180例)、一昨年(184例)から減少傾向がみられた。年齢別では各年齢層において減少しており、10代でもやはり減少していた(昨年26例、今年22例)。

クラミジア性咽頭炎は20代男性1例が報告されている。

4) 性器ヘルペス

初発82例(男性22例、女性60例)で昨年(男性15例、女性71例)と比較すると男性で減少、女性で増加していた。再発は63例(男性3例、女性60例)で昨年の70例(男性11例、女性59例)と比べて男性で減少していた。

5) 尖圭コンジローマ

49例(男性23例、女性26例)で昨年59例(男性38例、女性21例)と比較して男性で減少傾向であった。

6) その他

トリコモナス膣炎は46例と昨年の31例と比べて報告数が増加していた。陰毛しらみ症の報告はなかった(昨年2例の報告あり)。一般細菌による尿道炎は8例で男性のみであり、子宮頸管炎は16例と昨年同様であった。

4. 年齢別及び性別発生頻度

全症例672例について、年齢別の頻度を見ると、10歳代62例(昨年57例)、20歳代252例(昨年308例)、30歳代169例(昨年208例)、40歳代93例(昨年129例)、50歳代50例(昨年46例)、60歳以上は3例(昨年3例)であり、20代から40代における減少が顕著であった。

男女別の発生頻度では、男性279例(昨年353例)、女性393例(昨年425例)で、昨年と同様女性が多かったが、昨年と比較すると男性における減少が顕著であった(男性74例、女性32例減少)。女性は40歳を越えると急に減少しているのは例年のとおりである。

5. 感染源

男性の感染源については、性風俗での感染が 112 例（不明を除く男性全体の 70%、昨年は 60%）が 1 位で、友人が 41 例（26%、昨年 31%）で 2 位であった。女性では友人からの 84 例（不明を除く女性全体の 70%、昨年は 47%）が 1 位で、配偶者からの 32 例（27%、昨年 47%）が 2 位であった。

男性においては昨年同様であり、性風俗が多かったが、女性においては友人が増加しており、配偶者からの感染は減少していた。また、感染源に関しては例年同様に男女ともに不明が最も多かった（男性 118 例：42%、女性 273 例：70%）。

6. 感染地域

平成 21 年度から性風俗からの感染に限って集計しているのものでそれ以前の統計とは比較できない。横浜市が最も多く 35 例（不明除く 61 例の内 30%）以下県外 19 例、川崎市 5 例、その他県内、国外がそれぞれ 1 例であった。地元の横須賀は昨年は 13 例であったが、今回は報告がなかった。また、感染地域に関しても例年同様に不明が最も多かった（55 例：47%、昨年 38%）

< 考 察 >

1) 届け出総数

平成 27 年度の STI 届け出総数は 672 例で昨年の 778 例と比較して約 100 例の減少であった。過去 30 年間の届け出総数の年次推移を図 1 に示すが、昭和 61 年からのいわゆるエイズパニックにより、平成 5 年までの落ち込みがあったが、平成 6 年から横須賀市で STI を扱う婦人科、泌尿器科、皮膚科、性病科を標榜する全施設に調査を依頼するようになって急激に上昇しており、平成 11 年には 800 例を超えている。昨年からの減少については実際に発生件数が減少傾向にあるかどうかは今後の経過をみてゆく必要があると考えられる。

2) 各論

① 梅毒

図 2 に、過去 42 年間の推移が示されている。昭和 57 年までは年間 100 例以上の報告があったが、その後減少の一途をたどっている。昭和 61 年のエイズパニック以降は年間 10 例以下が続いている。平成 27 年では 13 例とやや増加しているが、平成 27 年の全国の定点調査では発生の増加が報告されているが、同様の増加傾向があるかどうかは経過を見てゆく必要がある。

② 淋病

図 2 に、年次推移が示されているが、昭和 50 年頃から梅毒と入れかわる様に増加して来ている。昭和 60 年頃に一時エイズパニックのためと思われる減少を示したが、その後激増して、平成 11 年度 148 例からは横ばい状況であった。平成 19 年度より減少傾向になり、平成 21 年度は 58 例と著しい減少を示したが、平成 25 年度は突然 142 例と増加し、平成 26 年度 135 例であったが、平成 27 年度には 88 例と減少している。図 2 に淋菌性尿道炎と非淋菌性尿道炎の推移を示す。また図 4 に淋菌性尿道炎と淋菌性子宮頸管炎の年次推移を示す。

この淋菌感染症の年度毎の発生数は男女ともに同様の推移が認められている。

③ クラミジア感染症

図5に、クラミジア性尿道炎と子宮頸管炎の年次推移を示した。男性のクラミジア性尿道炎は平成11年度89例であったが、平成12年度137例と急増している。

その後大きな変動はない。女性のクラミジア性子宮頸管炎も平成12年度に急増しているがその後男性のクラミジア性尿道炎とほとんど同様の推移を示している。このことは、男性は泌尿器科診療所を、女性は婦人科診療所を受診していることを考慮すると市内で発生しているクラミジア感染症はほぼ市内の診療所を受診していることが伺える

④ 性器ヘルペスと尖圭コンジローマ

図6に、性器ヘルペスと尖圭コンジローマの年次推移を示す。性器ヘルペスに関してはこの10年間で増加傾向を示している。一方、尖圭コンジローマに関しては年度での一時的な流行はあるもののほぼ横ばいであった。性器ヘルペスについては再発ヘルペスの増加傾向にあることを考慮し、平成22年度からは初発と再発を区別して統計をとっている。図7に性器ヘルペスについて男女別、初再発別の年次推移を示したが、特に女性における再発の性器ヘルペスの増加傾向が認められた。平成27年の全国の定点調査では性器ヘルペスの発生は横ばいであったが、今回の調査での女性の再発性器ヘルペスの増加傾向は横須賀市の特徴と考えられた。

3) 感染源と感染地域

男性の感染源は例年同様に性風俗での感染が最多であった。一方、女性に関しては昨年までは配偶者からの感染が最多であったが、平成27年度は友人からの感染が多かった。しかし、例年不明が最も多く、感染源の傾向を知るためには診療所における詳細な問診の必要性がある。感染地域に関しては5年前から性風俗からの感染の地域にしぼって統計をとっている。本年度も横浜市での感染が最も多かったが、昨年13例と多かった横須賀市内での発生は0であった。しかしながら、感染地域に関しても例年不明が最も多く、横須賀市内での感染を知る上でも感染源同様に診療所での詳細な問診が必要であることが示された。

<おわりに>

今回の調査に御協力いただいた施設の関係者の皆様には感謝申し上げます。この委員会報告は平成24年度からは横須賀市保健所のホームページ上で公開されていますが、全国の定点調査(厚生労働省のホームページで公開)と比較して横須賀市の特徴などを検討できればと考えておりますので今後も御協力よろしくお願い申し上げます。

文 献

1. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成4年度性病予防委員会研究報告、1992
2. 公平昭男、古畑哲彦、原上、小川英、大沢章通、松岡俊介、鈴木忍、花田剛：横須賀市における性病およびSTDの動向、神奈川医学会雑誌、20、47-51、1993
3. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成5年度性病予防委員会研究報告、1993
4. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成6年度性病予防委員会研究報告、1994
5. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成7年度性病予防委員会研究報告、1995
6. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成8年度性病予防委員会研究報告、1996
7. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成9年度性病予防委員会研究報告、1997
8. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成10年度STD予防委員会研究報告、1998
9. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成11年度STD予防委員会研究報告、1999
10. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成12年度STD予防委員会研究報告、2000
11. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成13年度STD予防委員会研究報告、2001
12. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成14年度STD予防委員会研究報告、2002
13. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成15年度STD予防委員会研究報告、2003
14. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成16年度STD予防委員会研究報告、2004
15. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成17年度STD予防委員会研究報告、2005
16. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成18年度STD予防委員会研究報告、2006
17. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成19年度STD予防委員会研究報告、2007
18. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成20年度STD予防委員会研究報告、2008
19. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成21年度STD予防委員会研究報告、2009
20. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成22年度STD予防委員会研究報告、2010
21. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成23年度STI予防委員会研究報告、2011
22. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成24年度STI予防委員会研究報告、2012
23. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成25年度STI予防委員会研究報告、2013
24. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成26年度STI予防委員会研究報告、2014

表1 病名・年齢・性別集計

(平成27年度)(単位:人)

病名 コード	病名	性別	合計	0-14	15	16	17	18	19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-	年齢 不明	
1	梅毒(初期)	男	8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	2	1	0	0	0	
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	2	0	0
2	梅毒(後期潜伏)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	梅毒(先天性)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	性器ヘルペス(初発)	男	22	0	0	0	0	0	0	4	1	4	5	3	2	0	0	0	0	3
		女	60	0	0	0	1	0	3	8	12	3	7	7	4	2	5	0	0	8
5	性器ヘルペス(再発)	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
		女	60	0	0	0	0	0	0	7	8	4	7	2	8	4	3	0	0	17
6	尿道炎(クラミジア)	男	119	0	0	0	1	5	4	19	17	22	14	11	13	3	6	0	0	4
		女	5	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
7	尿道炎(淋菌)	男	70	0	1	0	1	0	6	15	7	7	13	6	2	6	3	1	2	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	尿道炎(一般細菌)	男	8	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	2	1	0	1	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	尿道炎(トリコモナス)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10	尿道炎(その他)	男	23	0	0	0	0	0	1	4	3	4	3	4	1	2	0	0	1	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	子宮頸管炎(クラミジア)	女	156	0	1	1	6	5	9	45	38	27	14	8	1	1	0	0	0	
12	子宮頸管炎(淋菌)	女	17	0	0	1	1	3	0	5	3	0	3	0	0	0	1	0	0	
13	子宮頸管炎(一般細菌)	女	16	0	0	0	0	0	1	5	2	1	1	0	0	1	1	2	2	
14	子宮頸管炎(その他)	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15	トリコモナス膣炎	女	46	0	0	3	1	1	2	13	7	5	4	1	4	5	0	0	0	
16	陰毛しらみ症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	尖圭コンジローマ	男	23	0	0	0	0	1	0	4	6	4	3	0	1	1	0	0	3	
		女	26	0	0	0	2	0	1	6	4	3	3	3	1	2	0	0	1	
18	咽頭炎(淋菌)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
19	咽頭炎(クラミジア)	男	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
20	その他	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計			672	0	2	5	13	15	27	142	110	87	82	52	41	28	22	3	43	

表2 STIの感染源

(平成27年度)(単位:人)

感染源	小計	男	女
不明	391	118	273
友人	125	41	84
配偶者	35	3	32
風俗	116	112	4
その他	5	5	0
合計	672	279	393

表3 STIの感染場所(感染源:風俗)

(平成27年度)(単位:人)

感染場所	小計	男	女
横須賀市	0	0	0
横浜市	35	34	1
川崎市	5	5	0
相模原市	0	0	0
鎌倉市	0	0	0
逗子市	0	0	0
三浦市	0	0	0
葉山町	0	0	0
その他県内	1	1	0
県外	19	18	1
国外	1	1	0
不明	55	53	2
合計	116	112	4

表4 淋菌及びクラミジア感染症の推移

(単位:例)

年 度	淋 菌		クラミジア		計
	男	女	男	女	
平成 11 年度	145	20	89	159	413
平成 12 年度	118	13	137	221	489
平成 13 年度	142	17	165	184	508
平成 14 年度	121	16	162	190	489
平成 15 年度	114	12	135	180	441
平成 16 年度	121	22	152	192	487
平成 17 年度	103	13	123	181	420
平成 18 年度	110	17	133	167	427
平成 19 年度	79	19	123	151	372
平成 20 年度	71	8	98	161	338
平成 21 年度	47	11	108	180	346
平成 22 年度	61	15	103	180	359
平成 23 年度	84	22	118	172	396
平成 24 年度	79	16	132	209	436
平成 25 年度	109	33	149	196	436
平成 26 年度	111	24	152	188	475
平成 27 年度	70	18	120	161	369

図1 STIの届け出総数の年次推移

平成27年度 672例

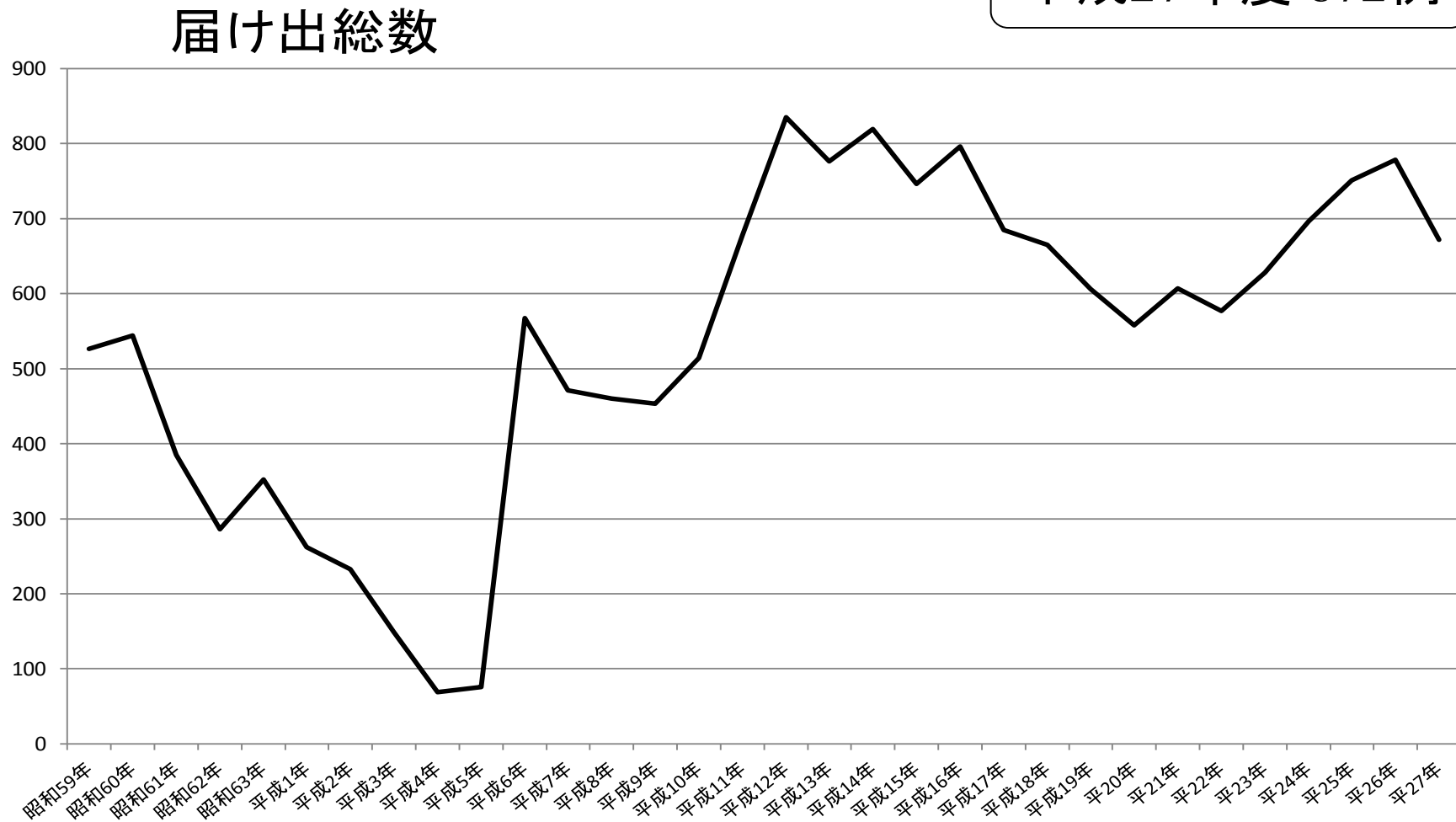


図2 42年間の梅毒・淋菌報告数年次的推移

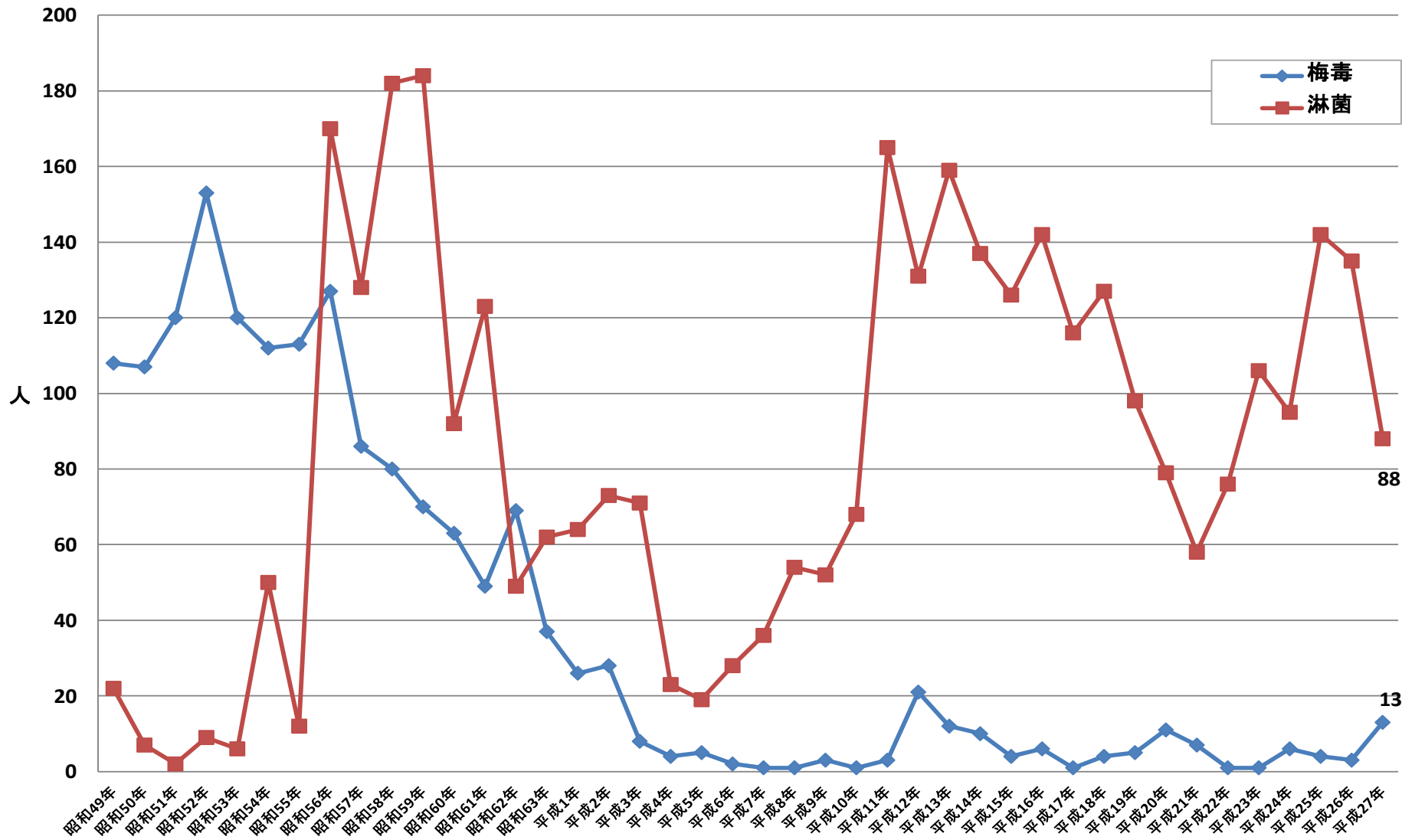


図3 35年間の尿道炎報告数年次的推移

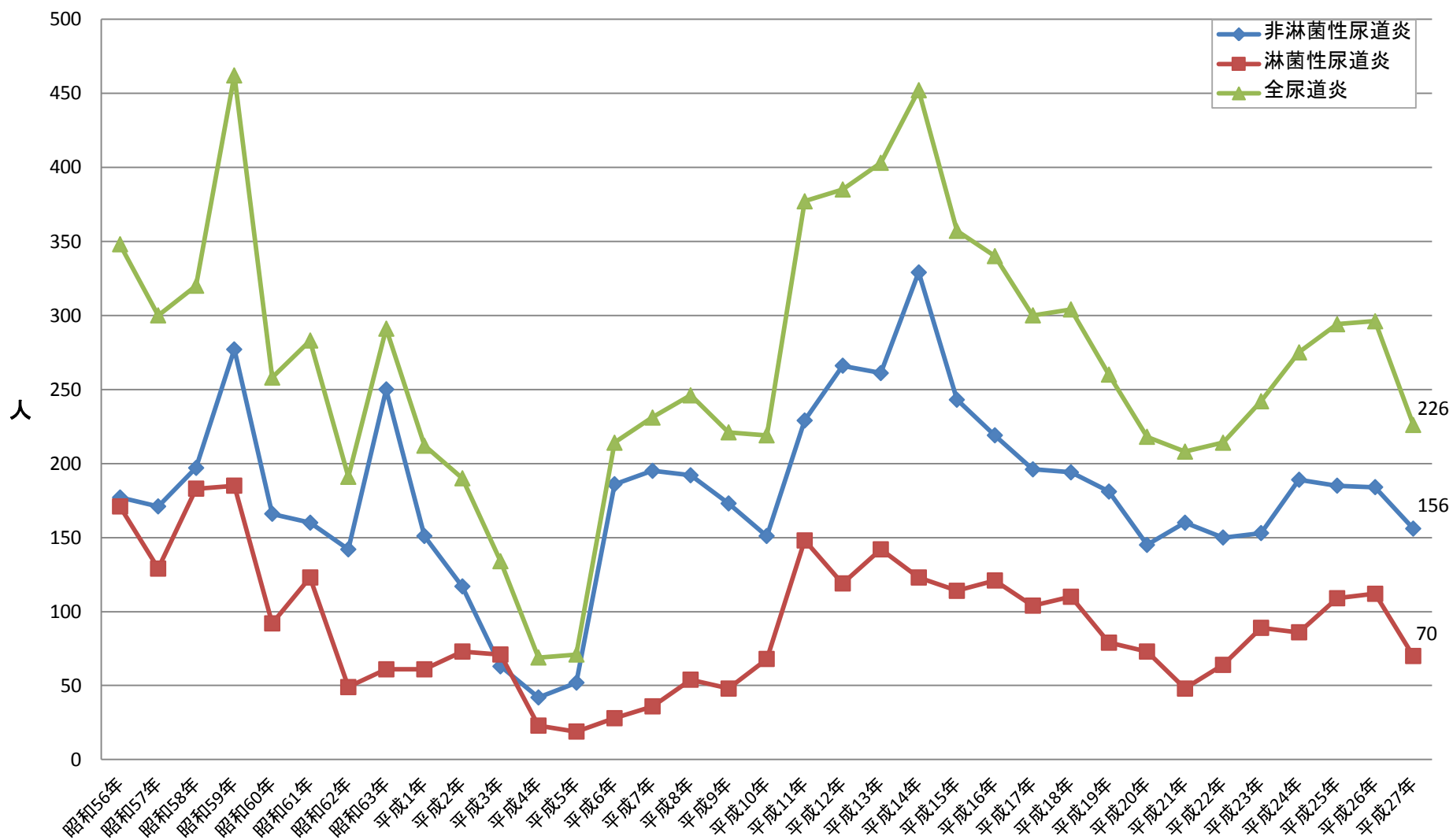


図4 淋菌性尿道炎と子宮頸管炎の年次推移

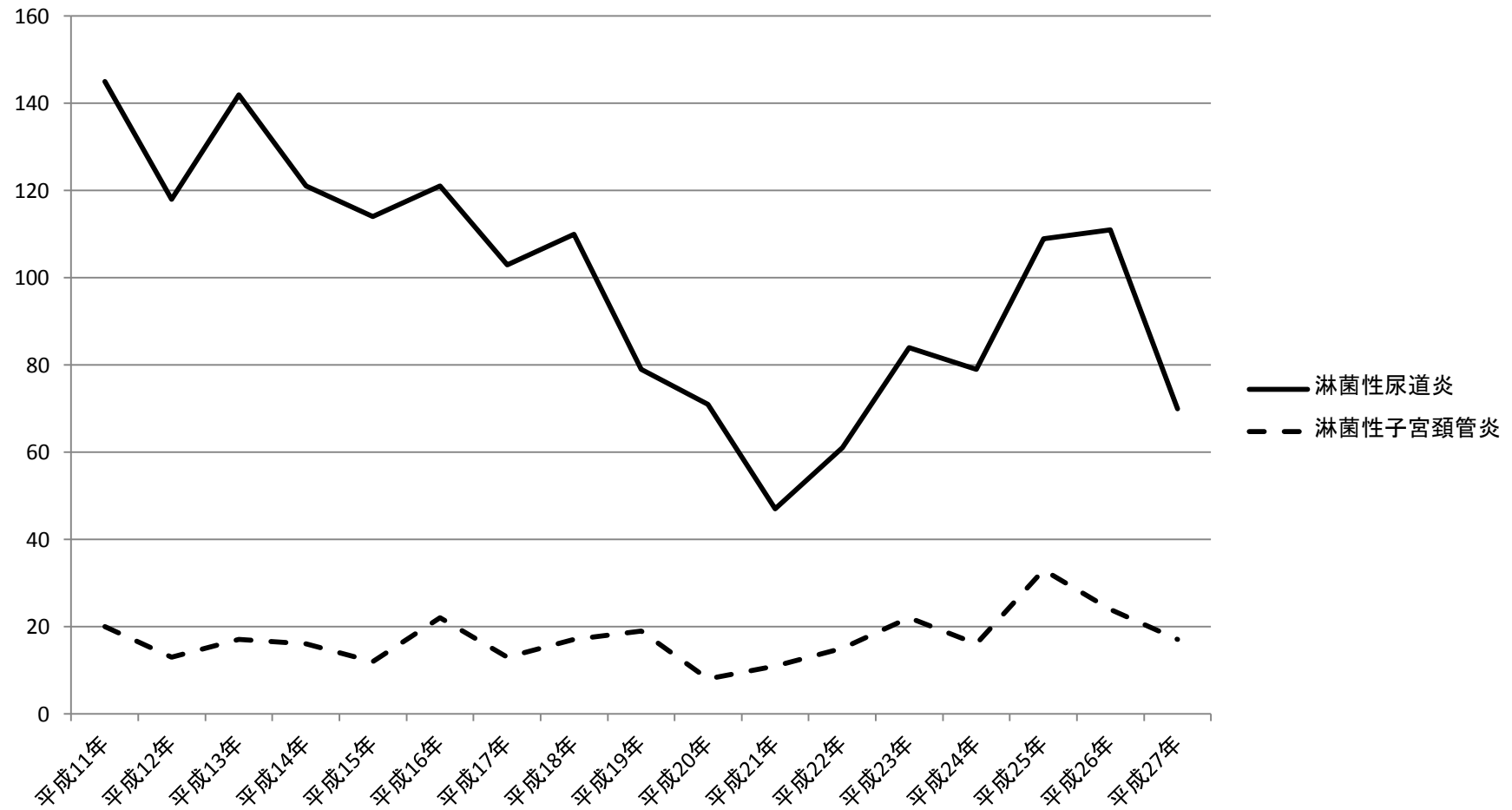


図5 クラミジア性尿道炎と子宮頸管炎の年次推移

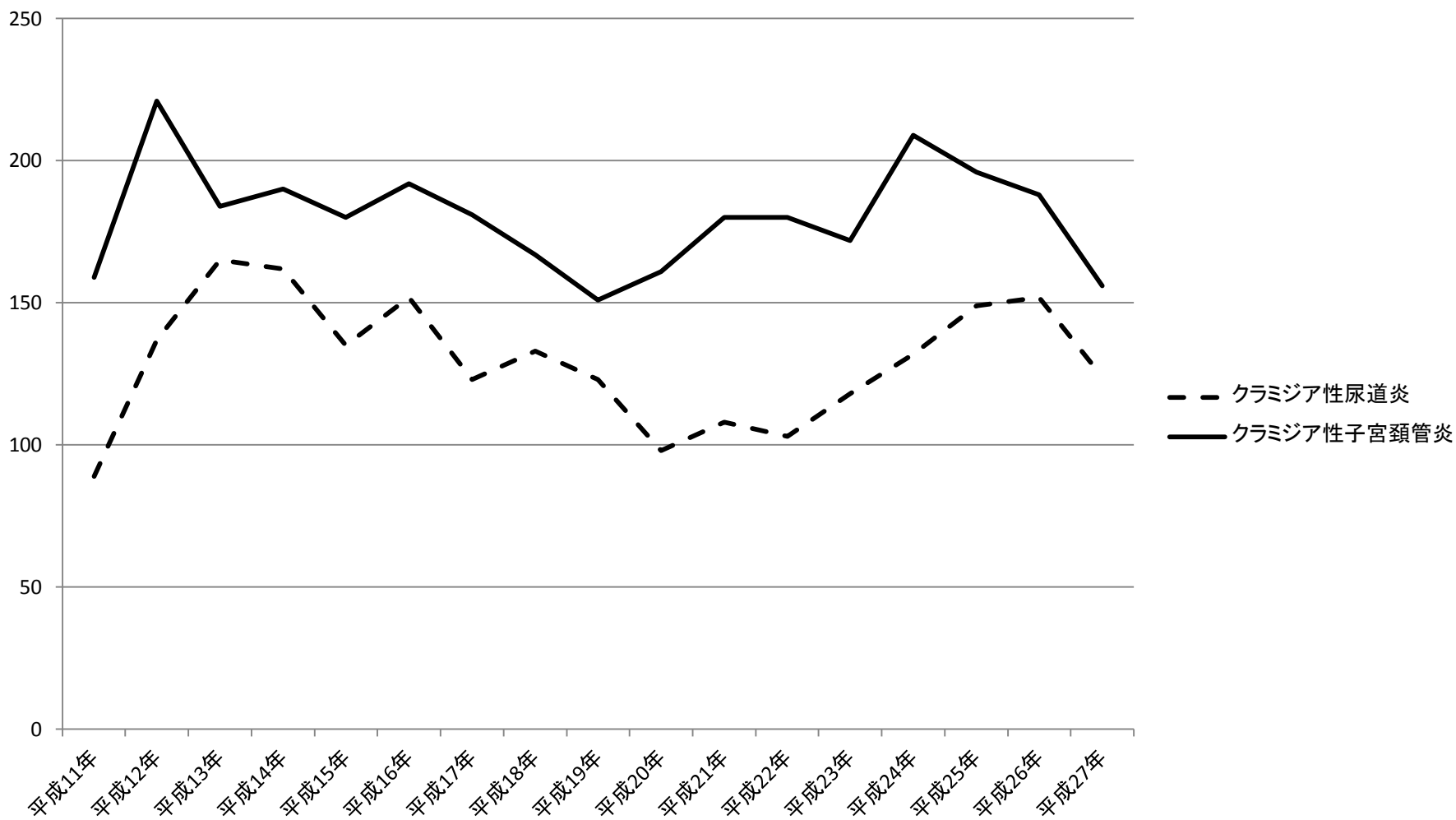


図6 性器ヘルペス及び尖圭コンジローマの年次推移

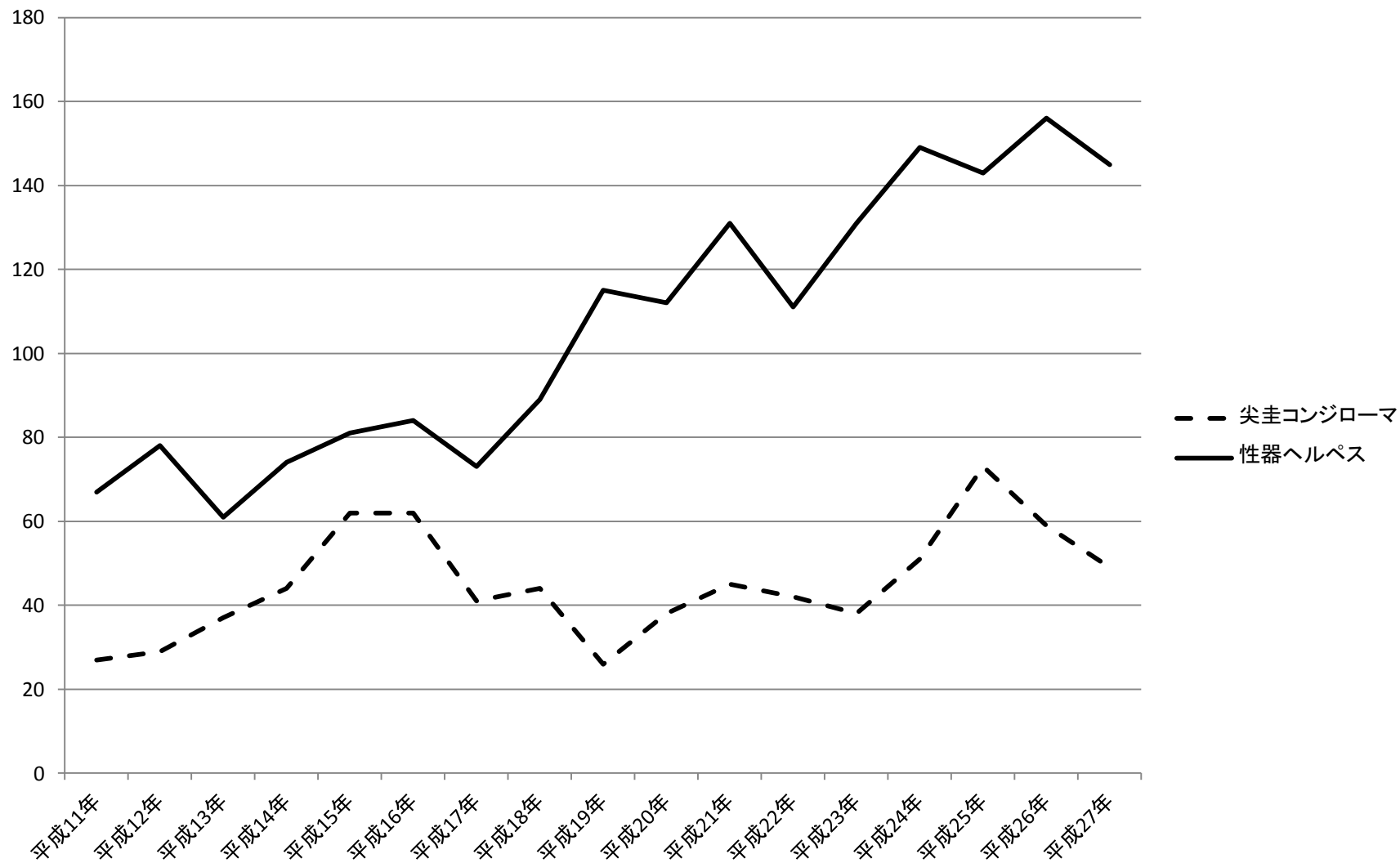
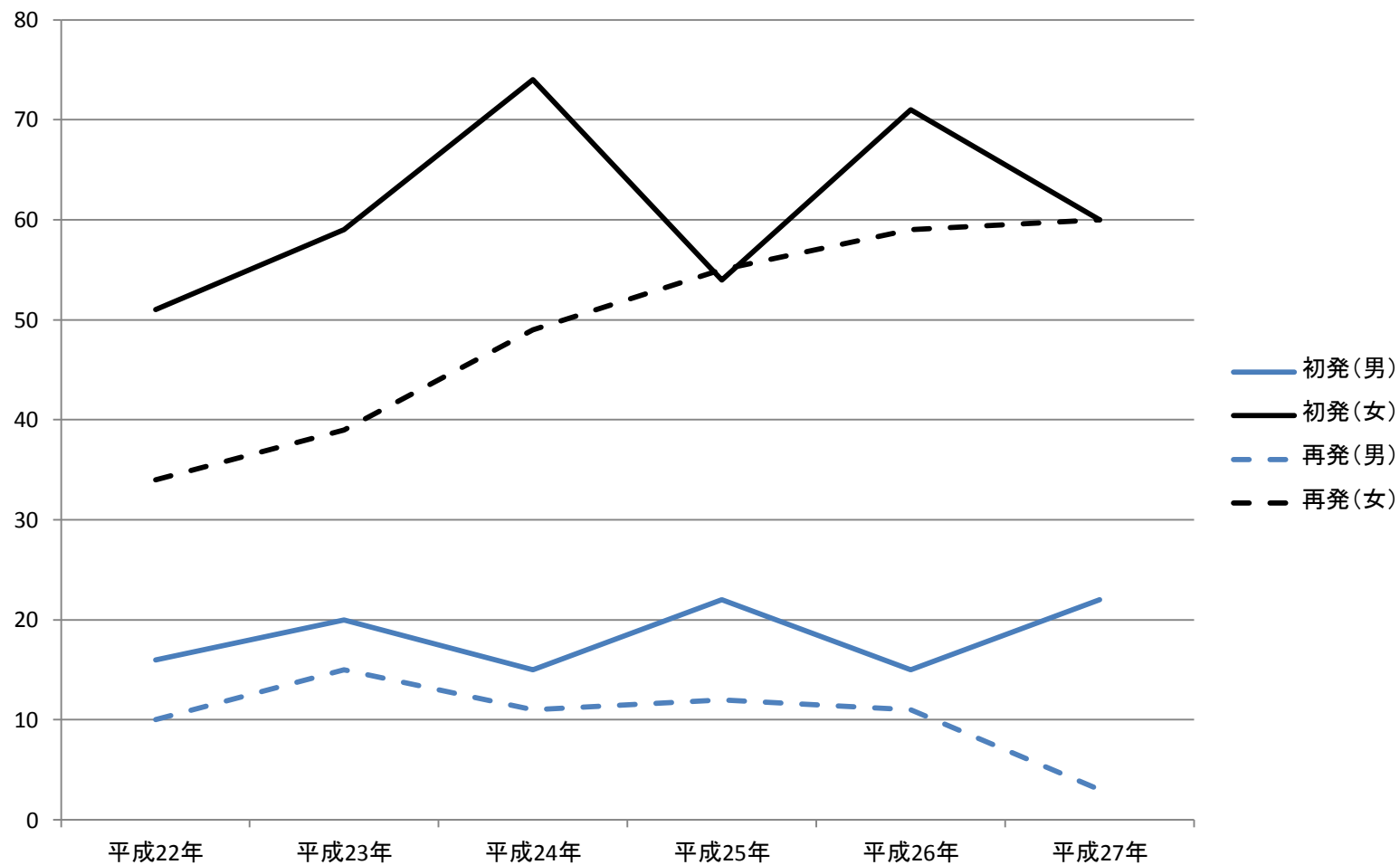


図7 性器ヘルペスの年次推移(男女別、初再発別)



・ S T I の届け出にご協力下さいました各施設の方々に、深く感謝いたします。

＜平成27年度 協力医療機関＞

【泌尿器科】

久里浜泌尿器科クリニック、里見腎・泌尿器科、新村皮フ泌尿器クリニック、ふくおか泌尿器科クリニック、古畑泌尿器科クリニック、よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック

【産科・婦人科・産婦人科】

今井ウイメンズクリニック、内出医院、うみかぜレディースクリニック、桜が丘診療所、国立クリニック、高レディースクリニック、後藤産婦人科医院、小松原レディースクリニック、坂井産婦人科医院、佐々木医院、鈴木産科婦人科医院、つのだレディースクリニック、パクスレディースクリニック、横須賀マタニティクリニック、くりはま優レディースクリニック

【皮膚科】

いまざわ皮フ科、金丸皮膚科、久里浜駅前皮フ科、コスモス皮膚科、長岡皮膚科医院、中林皮膚科、中村皮膚科、峯村皮膚科クリニック、新のび皮フ科、安田内科・皮ふ科、すずらん皮膚科クリニック、みやざわ皮膚科、さくら皮膚科

【その他医院】

青山医院、今井内科クリニック、いまにしクリニック、金谷医院、工藤医院、斎藤医院、湘南グリーンクリニック、鈴木クリニック、同胞援護会衣笠診療所、鳥海医院、中村外科整形外科

【総合病院】

よこすか浦賀病院、衣笠病院、自衛隊横須賀病院、湘南病院、横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院